

内分泌・代謝内科



診療部長・診療科長
田上 哲也

専門医資格等 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医、近畿支部評議員
日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医・教育責任者、
評議員
日本甲状腺学会 専門医、評議員
厚生労働省 臨床研修指導医
京都大学医学部 臨床教授・非常勤講師
京都大学 医学博士

専門分野 内科、内分泌・代謝
得意疾患 内分泌・代謝疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	立木 美香	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 日本高血圧学会 専門医 臨床研修指導医 東京女子医科大学 医学博士	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
医師	馬越 洋宜	日本内科学会 認定内科医 臨床研修指導医	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
専修医	廣嶋 佳歩	日本内科学会 認定内科医	内科、内分泌・代謝	内分泌疾患
専修医	横本 真希	日本内科学会 認定内科医 日本糖尿病学会 専門医	内科 内分泌・代謝	骨代謝疾患
専修医	兼子 大輝	日本内科学会 認定内科医	内科 内分泌・代謝	内分泌疾患
レジデント	笹井 有美子	日本内科学会 認定内科医 日本甲状腺学会 専門医	内科 内分泌・代謝	甲状腺疾患
非常勤医師	垣田真以子	日本内科学会 認定内科医 日本内分泌学会 内分泌代謝科(内科)専門医 日本甲状腺学会 専門医 日本抗加齢学会 専門医 日本医師会 認定産業医	内科 内分泌・代謝 女性医学	内分泌疾患
非常勤医師	小笠原辰樹	日本内科学会 認定内科医	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設 日本高血圧学会認定施設
-------	---

- 内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するものです。下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性ホルモンの異常をきたす疾患の他、内分泌疾患を疑う必要のある、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病、電解質異常、骨粗鬆症なども対象としており、糖尿病センターと連携して治療にあたっています。

- 地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として国の指定を受けています。全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築しています。また、日本内分泌学会認定教育施設および日本甲状腺学会認定専門医施設に認定されています。
- 診療のモットー
 1. 内分泌代謝疾患に関する、良質で高水準の医療を提供しています。
 2. 満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供しています。
 3. 十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進しています。

□ 主な対象疾患

● 下垂体疾患

下垂体インシデンタローマ:脳ドックなど、CTやMRIで偶然見つかった下垂体腫瘍の機能評価をします。

下垂体機能亢進症:先端巨大症(アクロメガリー)、クッシング病(下垂体性クッシング症候群)、プロラクチン産生下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)、TSH産生下垂体腫瘍(中枢性甲状腺機能亢進症)などです。糖尿病や肥満、不順月経の原因になります。

下垂体機能低下症:シーハン症候群(出産後下垂体機能低下症)などの汎下垂体機能低下症、ACTH単独欠損症(下垂体性副腎不全)、成長ホルモン分泌不全症、リンパ球性下垂体炎、中枢性尿崩症などがあります。無月経や低身長、低血圧・低血糖、口渇・多飲・多尿などが主徴候となります。小児科からのトランジション(引き継ぎ治療)も大切です。

● 甲状腺疾患

甲状腺腫:学校検診や人間ドックなどで指摘された甲状腺腫の評価をします。

甲状腺インシデンタローマ:頸動脈エコーなどで偶然見つかった甲状腺腫瘍の良性・悪性の判定をします。甲状腺機能亢進症:バセドウ病のほか、プランマー病(機能性結節)、妊娠性甲状腺機能亢進症があります。眼球突出や心房細動がきっかけで見つかることもあります。振戦や筋力低下の原因にもなります。コントロール不良のバセドウ病にはアイソトープ治療(¹³¹I内用療法)も考えてみてください。

破壊性甲状腺中毒症:発熱・前頸部痛を主訴とする亜急性甲状腺炎や、橋本病をベースとした無痛性甲状腺炎、インターフェロンやアミオダロンなどによる薬剤性甲状腺中毒症があります。

甲状腺機能低下症:原因として橋本病(慢性甲状腺炎)が最も多いですが、先天性甲状腺機能低下症や薬剤性甲状腺機能低下症(向精神薬など)も少なくありません。便秘や体重増加、皮膚の乾燥、顔のむくみ、脱毛などを訴えます。

● 副甲状腺疾患

高カルシウム血症:副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症や悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症、ビタミンD中毒があります。尿路結石を繰り返します。

低カルシウム血症:成人では特発性副甲状腺機能低下症があります。小児では、先天性副甲状腺機能低下症や偽性副甲状腺機能低下症があります。

骨粗鬆症:高齢化に伴い、閉経後の原発性骨粗鬆症が増加しています。ステロイドホルモンによる続発性骨粗鬆症にも注意が必要です。

● 副腎疾患

副腎インシデンタローマ:CTやMRIで偶然見つかった副腎腫瘍の機能評価をします。

副腎皮質機能亢進症:原発性アルドステロン症やクッシング症候群などがあります。多くは副腎腫瘍が原因です。高血圧や糖尿病、メタボリック症候群の原因になります。

副腎髄質機能亢進症:褐色細胞腫や傍神経節腫が原因です。術後数年後に転移が見つかるケースも少なくありません。発作性の高血圧が特徴です。

副腎皮質機能低下症:アヂソン病や先天性副腎過形成などが原因となります。急性副腎不全(副腎クリーゼ)を発症することがあります。

● 性腺疾患

ターナー症候群、クラインフェルター症候群、多嚢胞性卵巣症候群などです。

●内分泌性高血圧

高血圧の約15%はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、腎臓などのホルモン過剰が原因となります。適確な診断と治療で治癒可能なことが多いので、専門医の受診を勧めます。高血圧の～10%に原発性アルドステロン症が見つかります。

●メタボリックシンドローム

高血圧、肥満、糖尿病などの生活習慣病の中にも内分泌の病気が隠れています。

●サルコペニア

加齢によって筋肉量が減り、握力や歩く速度が低下するなど、身体機能に影響がでる状態。日常生活に支障がでるのみならず、転倒・骨折、生活習慣病、認知症などのさまざまな病気のリスクとなります。

●その他

腎性尿崩症、多発性内分泌腺腫症(MEN I 型, MEN II 型)

電解質異常(低カリウム血症、低ナトリウム血症など)、高脂血症、高尿酸血症など、その他の内分泌代謝疾患

□ 診療(業務)内容

●外来では、血液検査、画像検査(レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー)、甲状腺の細胞診などを行っています。遺伝子診断・遺伝相談、セカンドオピニオン外来を実施しています。本年度より新たに骨粗鬆症・サルコペニア専門外来を開設しました。

●入院では、上記疾患の診断と治療の他、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺眼症のステロイドパルス療法、原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施しています。

□ 診療実績(平成29年度)

入院患者数

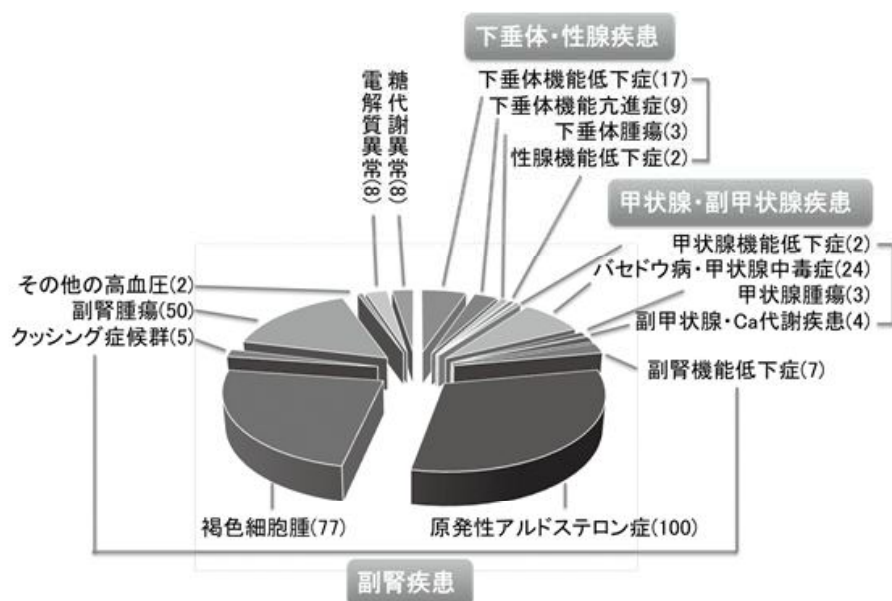
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
4.8名	312名	5.5日

外来患者数

1日平均総患者数	年間初診患者数
58.7名	779名

主な検査の件数など

甲状腺エコー	甲状腺細胞診	副腎静脈サンプリング
1,643件	146件	42件



〈福島県県外甲状腺検査〉

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、東京電力福島第一原子力発電所では、放射性物質の放出を伴う事故(以下、福島第一原発事故という)が発生した。この事故は、国際原子力・放射線事象評価尺度(International Nuclear and Radiological Event Scale: INES)において、1986年4月26日に旧ソビエト連邦(現ウクライナ)で発生したチェルノブイリ原子力発電所事故(以下「チェルノブイリ原発事故」という)と同等の「7」(暫定)とされている。チェルノブイリ原発事故においては、事故直後に食品等の規制がなされなかったことなどに起因し、周辺住民の放射性ヨウ素による内部被ばくが拡大し、小児の甲状腺がんが激増する事態となった。このことから、福島第一原発事故においても小児の甲状腺がん発症への懸念が高まっている。このため、福島県では県民の健康見守り事業である「県民健康管理調査」を実施し、その中で、福島第一原発事故発生時に18歳以下の小児であった者に対する甲状腺検査を行っている。

「県民健康管理調査」事業は、福島第一原発事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげることで、将来にわたる県民の健康維持・増進を図ることを目的としている。財源には、国及び福島県からの出資金並びに東京電力株式会社から福島県への賠償金等から構成される「福島県民健康管理基金」が充てられている。検査・診断等は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターが主体となって行っている。県民健康管理調査は、外部被ばく線量の推計を目的とした「基本調査」と、健康状態の把握を目的とした「詳細調査」から構成されている。

甲状腺検査

事故当時18歳以下の小児(平成4年4月2日以降に生まれた者)を対象とし、以下の2つの検査から構成されている。

- 先行検査 平成23年10月から平成26年3月末までに行われる、1回目の甲状腺検査
- 本格検査 平成26年4月以降、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに継続して行われる甲状腺検査

チェルノブイリ原発事故のデータから、小児甲状腺がんが増加するのは事故後4~5年を経過して以降とされている。このことを踏まえつつ、事故直後に開始された先行検査は、福島第一原発事故後3年以内の小児の甲状腺の状態を把握することで、放射線被ばくによる影響が考えにくい時点での疾患の頻度を記録し、将来の健康管理の土台をつくることを目的としている。一方、事故後3年を経て開始される予定の本格検査は、放射線被ばくの影響についての追跡調査と健康管理を目的としている。平成25年現在行われているのは先行検査である。

先行検査はさらに、対象者全員に対して行われる一次検査と、一次検査で疑わしい所見のあった者に対してのみ行われる、診断確定のための二次検査で構成される。

一次検査は甲状腺エコー検査(超音波検査)である。二次検査は甲状腺エコー検査に加え、採血・尿検査が行われるほか、必要な場合は細胞診(甲状腺の細胞を採取して行う検査)が行われる。

京都医療センター内分泌・代謝内科では、京都府下への避難者(京都府内居住者)を対象に一次検査と二次検査を実施している。

	福島甲状腺エコー
2012年度	9件
2013年度	26件
2014年度	9件
2015年度	21件
2016年度	11件
2017年度	11件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者	演題	学会名		
国際学会	Umakoshi H, Tsuiki M, Kurihara I, Takeda Y, Ichijo T, Wada N, Katabami T, Ogawa Y, Takahashi K, Sone M, Kawashima J, Shibata H, Yanase T, Rakugi H, Kamemura K, Fujii Y, Naruse M	Clinical significance of computed tomography and serum potassium in subtype classification of primary aldosteronism.	ENDO 2017, the Endocrine Society's 99th Annual Meeting	Orlando, USA	2017.4.2
国際学会	Yumiko Sasai, Hironobu Umakoshi, Mika Tsuiki, Mitsuhide Naruse, Isao Kurihara, Takanobu Yoshimoto, Tomikazu Fukuoka, and JPAS members	Reliability of subtype diagnosis of primary aldosteronism associated with hypercortisolism in adrenal vein sampling	ENDO 2017, the Endocrine Society's 99th Annual Meeting	Orlando, USA	2017.4.2
国内学会	馬越洋宜, 立木美香, 田上哲也, 栗原勲, 伊藤裕, 武田仁勇, 和田典男, 一城貴政, 方波見卓行, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病型診断におけるCTの意義の再評価	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.20
国内学会	田上哲也	若手臨床内分泌医育成委員会企画 Clinical Endocrinology KO rounds エキスパートによる目から鱗の内分泌代謝セミナー HbA1cとTSHは初診時検査に入れるべき!?	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.20
国内学会	田上哲也	甲状腺疾患のCQ:患者さんからの疑問に答える	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.20
国内学会	濱中佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 馬越洋宜, 笹井有美子, 立木美香, 田上哲也, 浅原哲子, 成瀬光栄, 十一英子, 寺島剛, 島津章	Non-Langerhans cell histiocytosisに関連すると考えられる中枢性尿崩症の一例	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.21
国内学会	小笠原辰樹, 笹井有美子, 廣嶋佳歩, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 日下部徹, 浅原哲子, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	TSH産性が疑われた下垂体腫瘍の1例	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.21
国内学会	吉澤宏一, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	褐色細胞腫の臨床的特徴 自験86例での検討	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.21
国内学会	林美沙, 二若久美, 小山理恵, 福田佑紀, 范悦, 田上哲也, 森山賢治	高脂肪負荷時の腹部内臓脂肪におけるUCP1の発現解析	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.21
国内学会	田上哲也	甲状腺ホルモン受容体と関連する疾患の最前線 甲状腺ホルモン不応症 Update	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.21
国内学会	田上哲也	保険診療を踏まえた甲状腺関連検査の選択と頻度	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.21
国内学会	横本真希, 立木美香, 馬越洋宜, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫における骨転移の臨床的特徴	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.22
国内学会	立木美香, 馬越洋宜, 和田典男, 小川佳宏, 吉本貴宣, 曾根正勝, 方波見卓行, 柳瀬敏彦, 成瀬光栄, JPAS研究班	原発性アルドステロン症手術治療例における重症度分類の検証	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4.22
国内学会	成瀬光栄, 馬越洋宜, 立木美香, 横本真希, 田上哲也	二次性高血圧を見逃さない 褐色細胞腫・パラガングリオーマ	日本高血圧学会臨床高血圧フォーラム	岡山	2017.5.13
国内学会	成瀬光栄, 立木美香, 馬越洋宜, 田上哲也	他領域からみた妊娠高血圧症候群 妊娠時における内分泌性高血圧の診断と治療	第39回日本妊娠高血圧学会	熊本	2017.9.23
国内学会	垣田真以子, 臼井 健, 濱中佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 笹井有美子, 馬越洋宜, 立木美香, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	家族性甲状腺髄様癌に対するバンデタニブの治療効果	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10.6
国内学会	濱中(廣嶋)佳歩, 笹井有美子, 兼子大輝, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 浅原哲子, 成瀬光栄, 濱祥代, 田上哲也	TRA値とTSAb値に乖離を認めた高齢男性の甲状腺眼症の1例	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10.6
国内学会	林美沙, 二若久美, 松下翠, 平尾明日香, 田上哲也, 森山賢治	甲状腺ホルモン作用の攪乱因子について	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10.7
国内学会	笹井有美子, 兼子大輝, 濱中佳歩, 中谷理恵子, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 成瀬光栄, 日下部徹, 浅原哲子, 島津章, 田上哲也	Basedow病に対する放射性ヨウ素内用療法における副腎皮質ホルモン薬内服の抗TSH受容体抗体価への影響	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10.7
国内学会	横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 田辺晶代, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫・パラガングリオーマにおける骨転移・骨関連事象の臨床的特徴	第40回日本高血圧学会総会	松山	2017.10.20
国内学会	馬越洋宜, 武田仁勇, 栗原勲, 方波見卓行, 一城貴政, 和田典男, 吉本貴宣, 河島淳司, 曾根正勝, 高橋克敏, 立木美香, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病型診断におけるCTと血清カリウムの意義	第40回日本高血圧学会総会	京都	2017.10.21
国内学会	田上哲也	甲状腺腫瘍の新WHO分類～臨床へ与えるインパクト:内科的観点から	第21回日本臨床内分泌病理学会学術集会	東京	2017.10.28
国内学会	立木美香, 廣嶋佳歩, 馬越洋宜, 田上哲也, 島津章, 猪飼伊和夫, 方波見卓行, 笹野公伸, 成瀬光栄	肝腫瘍との鑑別を要した副腎皮質癌の一例	第21回日本臨床内分泌病理学会学術集会	東京	2017.10.28
国内学会	馬越洋宜, 立木美香, 武田仁勇, 栗原勲, 方波見卓行, 一城貴政, 和田典男, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリング適応の精緻化:CTと血清カリウムを用いた分類	第21回日本臨床内分泌病理学会学術総会	東京	2017.10.28

国内学会	成瀬光栄, 奥野博, 立木美香, 馬越洋宜, 横本真希, 田上哲也, 島津章	Laparoscopy「褐色細胞腫に対する腹腔鏡手術」褐色細胞腫の腹腔鏡手術内分泌代謝内科医の立場から	第31回日本泌尿器内視鏡学会総会	徳島	2017.11.18
国内学会	横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 田辺晶代, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫・パラガングリオーマの骨転移リスク因子の解明	第27回臨床内分泌代謝update	神戸	2017.11.24
国内学会	立木美香, 馬越洋宜, 和田典男, 小川佳宏, 吉本貴宣, 曾根正勝, 方波見卓行, 柳瀬敏彦, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症手術治療例における重症度の経時的変化	第27回臨床内分泌代謝Update	神戸	2017.11.25
国内学会	馬越洋宜, 立木美香, 武田仁勇, 栗原勲, 方波見卓行, 一城貴政, 和田典男, 成瀬光栄	副腎静脈サンプリングの適応の精緻化:局在診断と術後アウトカムの観点から	第21回日本心血管内分泌代謝学会学術総会(シンポジウム)	大阪	2017.12.9
国内学会	笹井有美子, 馬越洋宜, 立木美香, 栗原勲, 吉本貴宣, 福岡富和, 成瀬光栄, JPAS研究班	コルチゾール自律産生を有する原発性アルドステロン症の頻度と副腎静脈採血における病型診断法	第90回日本内分泌学会総会	京都	2017.4.21
国内学会地方会及び分科研究会	笹井有美子, 兼子大輝, 廣嶋佳歩, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 日下部徹, 浅原哲子, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也, 白神幸太郎, 相川幸生, 玉那覇民子, 岡田厚	急性心不全を契機に傍神経節腫瘍(左房・左頸部・右副腎)診断に至るも治療切除が困難と考えられた1例	第18回日本内分泌学会近畿支部学術集会	大阪	2017.11.4
国内学会地方会及び分科研究会	笹井有美子, 兼子大輝, 廣嶋佳歩, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 中谷理恵子, 日下部徹, 浅原哲子, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	Basedow病に対する放射性ヨウ素内用療法における副腎皮質ホルモン薬内服の抗TSH受容体抗体価への影響	第18回京滋臨床甲状腺懇話会	京都	2017.6.17
国内学会地方会及び分科研究会	田上哲也	甲状腺ホルモン不応症:RTHβとRTHα	第18回鹿児島甲状腺疾患研究会	鹿児島	2017.8.3
国内学会地方会及び分科研究会	兼子大輝, 立木美香, 笹井有美子, 廣嶋佳歩, 横本真希, 馬越洋宜, 日下部徹, 浅原哲子, 島津章, 広川侑奨, 奥野博, 森吉弘毅, 笹野公伸, 成瀬光栄, 田上哲也	6年間の経過で病型診断が変わった原発性アルドステロン症の1例	第93回京都内分泌同好会	京都	2017.10.14
国内学会地方会及び分科研究会	垣田真以子, 兼子大輝, 廣嶋佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 笹井有美子, 馬越洋宜, 立木美香, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	42歳でTurner症候群と診断した橋本病の一例	第40回京都甲状腺研究会	京都	2018.2.3
国内学会地方会及び分科研究会	濱中(廣嶋)佳歩, 馬越洋宜, 兼子大輝, 横本真希, 笹井有美子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 筑後孝紀, 勝島慎二, 島津章	両側副腎・肝の占拠性病変により副腎不全をきたした症例	第94回京都内分泌同好会	京都	2017.3.24
その他	横本真希	いつの間にか骨折?	伏見内分泌代謝ネットワーク 第27回連携の会	京都	2017.5.25
その他	日下部徹	サルコペニアを予防する!	伏見内分泌代謝ネットワーク 第27回連携の会	京都	2017.5.25
その他	笹井有美子	何もしない甲状腺癌!	伏見内分泌代謝ネットワーク 第27回連携の会	京都	2017.5.25
その他	田上哲也	女性のライフサイクルと甲状腺機能異常	産婦人科診療内容向上会	京都	2017.8.5
その他	田上哲也	乳癌に対する内分泌療法に伴う骨粗鬆症	Bone management連携セミナー～骨粗鬆症のCareを考える～	和歌山	2017.9.28
その他	横本真希, 立木美香, 馬越洋宜, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫・パラガングリオーマにおける骨転移の臨床的特徴	第4回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾	京都	2017.9.29
その他	兼子大輝	内分泌性肥満を見逃すな!	伏見内分泌代謝ネットワーク 第28回連携の会	京都	2017.11.9
その他	馬越洋宜	内分泌性高血圧を見逃すな!	伏見内分泌代謝ネットワーク 第28回連携の会	京都	2017.11.9
その他	立木美香	内分泌性糖尿病を見逃すな!	伏見内分泌代謝ネットワーク 第28回連携の会	京都	2017.11.9
その他	廣嶋佳歩, 立木美香	抑うつ状態・認知機能低下をきたした高齢男性の一例	第21回京都地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー	京都	2017.11.30
その他	田上哲也	甲状腺中毒症の保険診療について	Roche 甲状腺セミナー in Osaka	大阪	2017.11.30
その他	堤惟, 兼子大輝, 中前恵一郎	四肢脱力を主訴に来院した血圧管理不良若年女性の一例	第28回京都地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー	京都	2017.11.30
その他	田上哲也	動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017を踏まえた資質管理	乙訓医師会 特定健康診査反省会・学術講演会	京都	2017.12.3
その他	馬越洋宜	副腎疾患をさわめる	平成30年度内分泌代謝性疾患専門医研修会	京都	2018.2.2
その他	田上哲也	甲状腺疾患をさわめる	平成30年度内分泌代謝性疾患専門医研修会	京都	2018.2.2
その他	田上哲也	原発性骨粗鬆症と続発性骨粗鬆症	Osteoporosis Live Symposium	京都	2018.3.8

□ 投稿論文など

区分	著者, タイトル, 巻・ページ	著書・雑誌名
英文原著論文	Yokomoto-Umakoshi M, Umakoshi H, Tsuiki M, Ogasawara T, Hamanaka-Hiroshima K, Tanabe A, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M. Paraganglioma as a risk factor for bone metastasis. <i>Endocr J</i> . 2017 Nov 29. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0368. [Epub ahead of print]	Endocr J
英文原著論文	Naruse M, Umakoshi H, Tsuiki M, Yokomoto M, Tagami T, Tanabe A, Shimatsu A. The Latest Developments of Functional Molecular Imaging in the Diagnosis of Primary Aldosteronism. <i>Horm Metab Res</i> . 2017 Dec;49(12):929-935. doi: 10.1055/s-0043-120672. Epub 2017 Nov 23.	Horm Metab Res
英文原著論文	Hayashi M, Futawaka K, Koyama R, Fan Y, Matsushita M, Hirao A, Fukuda Y, Nushida A, Nezu S, Tagami T, Moriyama K. Effects of growth hormone on uncoupling protein 1 in white adipose tissues in obese mice. <i>Growth Horm IGF Res</i> . 2017 Dec;37:31-39. doi: 10.1016/j.ghir.2017.10.006. Epub 2017 Oct 24.	Growth Horm IGF Res
英文原著論文	Hayashi M, Futawaka K, Matsushita M, Koyama R, Fun Y, Fukuda Y, Nushida A, Nezu S, Tagami T, Moriyama K. GH directly stimulates UCP3 expression. <i>Growth Horm IGF Res</i> . 2018 Jan 31. pii: S1096-6374(18)30002-9. doi: 10.1016/j.ghir.2018.01.002. [Epub ahead of print]	Growth Horm IGF Res
英文原著論文	Hayashi M, Futawaka K, Matsushita M, Hatai M, Yoshikawa N, Nakamura K, Tagami T, Moriyama K. Cigarette Smoke Extract Disrupts Transcriptional Activities Mediated by Thyroid Hormones and Its Receptors. <i>Biol Pharm Bull</i> . 2018;41(3):383-393. doi: 10.1248/bpb.b17-00735.	Biol Pharm Bull
英文原著論文	Wada M, Kita M, Kawasaki K, Kusakabe T, Tagami T, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hashimoto K. False-positive TSH receptor antibody-a pitfall of third-generation TSH receptor antibody measurements in neonates. <i>Endocr J</i> . 2018 Mar 10. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0426. [Epub ahead of print]	Endocr J
英文原著論文	Sakane Y, Kanamoto N, Yamauchi I, Tagami T, Morita Y, Miura M, Sone M, Yasoda A, Kimura T, Nakao K, Inagaki N. Regulation of type 1 iodothyronine deiodinase by LXR α . <i>PLoS One</i> . 2017 Jun 15;12(6):e0179213. doi: 10.1371/journal.pone.0179213. eCollection 2017.	PLoS One
英文原著論文	Yokomoto-Umakoshi M, Kanazawa I, Kondo S, Sugimoto T. Association between the risk of falls and osteoporotic fractures in patients with type 2 diabetes mellitus. <i>Endocr J</i> 2017 64:727-734.	Endocr J
英文原著論文	Kobayashi (Kakita) M, Tagami, T. Thyroid hormones and pregnancy/infertility/recurrent Pregnancy loss 1)	J Jpn Thyroid Assoc
英文原著論文	Umakoshi H, Tsuiki M, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Yuichi M, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamoto K, Ogo A, Yanase T, Suzuki T, Naruse M. Significance of Computed Tomography and Serum Potassium in Predicting Subtype Diagnosis of Primary Aldosteronism. <i>The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism</i> 2018 ;103(3):900-908	The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism
英文原著論文	Umakoshi H, Ogasawara T, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamoto K, Ogo A, Yanase T, Okamura S, Miyauchi S, Suzuki T, Tsuiki M, Naruse M; JPAS Study Group. Accuracy of adrenal computed tomography in predicting the unilateral subtype in young patients with hypokalaemia and elevation of aldosterone in primary aldosteronism. <i>Clin Endocrinol (Oxf)</i> . 2018 Feb 21. doi: 10.1111/cen.13582. [Epub ahead of print]	Clin Endocrinol (Oxf)
英文原著論文	Ohno Y, Sone M, Inagaki N, Yamasaki T, Ogawa O, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Umakoshi H, Tsuiki M, Ichijo T, Katabami T, Tanaka Y, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Takahashi K, Fujita M, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamoto K, Ogo A, Okamura S, Miyauchi S, Fukuoka T, Izawa S, Yoneda T, Hashimoto S, Yanase T, Suzuki T, Kawamura T, Tabara Y, Matsuda F, Naruse M; Nagahama Study; JPAS Study Group. Prevalence of Cardiovascular Disease and Its Risk Factors in Primary Aldosteronism: A Multicenter Study in Japan. <i>Hypertension</i> . 2018 Mar;71(3):530-537.	Hypertension
英文原著論文	Fujii Y, Umakoshi H, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M, Naruse M; WAVES-J Study Group. Subtype prediction of primary aldosteronism by combining aldosterone concentrations in the left adrenal vein and inferior vena cava: a multicenter collaborative study on adrenal venous sampling. <i>J Hum Hypertens</i> . 2017 Dec;32(1):12-19.	J Hum Hypertens
英文原著論文	Williams TA, Lenders JWM, Mulatero P, Burrello J, Rottenkolber M, Adolf C, Satoh F, Amar L, Quinkler M, Deinum J, Beuschlein F, Kitamoto KK, Pham U, Morimoto R, Umakoshi H, Prejbisz A, Kocjan T, Naruse M, Stowasser M, Nishikawa T, Young WF Jr, Gomez-Sanchez CE, Funder JW, Reincke M; Primary Aldosteronism Surgery Outcome (PASO) investigators. Outcomes after adrenalectomy for unilateral primary aldosteronism: an international consensus on outcome measures and analysis of remission rates in an international cohort. <i>Lancet Diabetes Endocrinol</i> . 2017 Sep;5(9):689-699.	Lancet Diabetes Endocrinol
英文原著論文	Wada N, Shibayama Y, Umakoshi H, Ichijo T, Fujii Y, Kamemura K, Kai T, Sakamoto R, Ogo A, Matsuda Y, Fukuoka T, Tsuiki M, Suzuki T, Naruse M. Hyperkalemia in both surgically and medically treated patients with primary aldosteronism. <i>J Hum Hypertens</i> . 2017 Oct;31(10):627-632	J Hum Hypertens
和文総説・著書	小林真以子【垣田】, 田上哲也. 【甲状腺ホルモンと関連疾患】甲状腺ホルモンと妊娠/不妊症/不育症 妊娠. 日本甲状腺学会雑誌(2185-3126)8巻2号 Page73-83(2017.09)	日本甲状腺学会雑誌
和文総説・著書	田上哲也. 【内科医のためのクリニカル・パ Pearl】内分泌・代謝 内分泌疾患のクリニカル・パ Pearl. <i>Medicina</i> (0025-7699)54巻10号 Page1693-1696(2017.09)	Medicina
和文総説・著書	濱中佳歩【廣嶋】, 田上哲也. 【内科医のためのクリニカル・パ Pearl】内分泌・代謝 心臓のこる症例 こんなところに内分泌	Medicina
和文総説・著書	成瀬光栄, 立木美香, 馬越洋宜, 横本真希, 笹井由美子, 田上哲也, 島津章. 【原発性アルドステロン症診療の進歩】わが国の原発性アルドステロン症の診療に関するコンセンサス・ステートメント. 血圧(1340-4598)24巻12号 Page838-845(2017.12)	血圧
和文総説・著書	馬越洋宜, 横本真希, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄. 【原発性アルドステロン症診療の進歩】原発性アルドステロン症の局在診断法としての副腎静脈サンプリングの課題	血圧
和文総説・著書	横本真希, 立木美香, 馬越洋宜, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井由美子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄. 褐色細胞腫の長期予後とQLQ ホルモンと臨床 vol 63 No.3 p45-49	ホルモンと臨床
和文総説・著書	横本真希, 成瀬光栄. 原発性アルドステロン症関連病態, 原発性アルドステロン症における異所性受容体 原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第3版 2017 p45-49	原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第3版

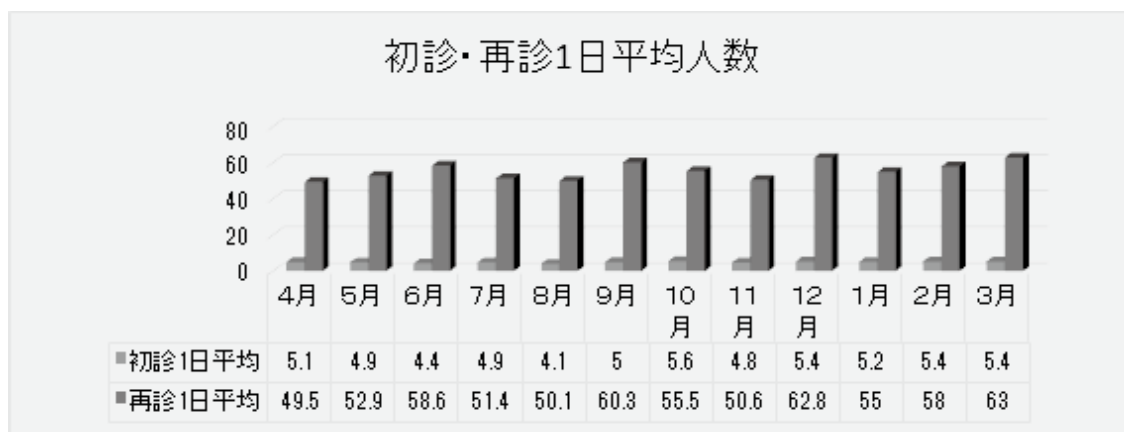
和文総説・著書	馬越洋宜、田上哲也、成瀬光栄. 原発性アルドステロン症の成因. 原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第3版. 2017: 42-44	原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第3版
和文原著論文	横本真希、成瀬光栄. 骨転移の薬物療法②、術後予後・経過観察法. 褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版. 2017. p66-68, p94-95	褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版
和文総説・著書	立木美香. 妊婦における褐色細胞腫. 褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版. 2017;118-120	褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版
和文総説・著書	立木美香、田上哲也、成瀬光栄. 低カリウム血症を伴う高血圧の鑑別診断. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版. 2017;86-87	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	立木美香、田辺晶代、成瀬光栄. サブクリニカルクッシング症候群. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版. 2017;128-130	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	立木美香、成瀬光栄、田上哲也. デキサメタゾン抑制試験. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版. 2017;181-182	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	笹井有美子、成瀬光栄. 家族性高アルドステロン症. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版. 2017:155-157	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	田上哲也、成瀬光栄. 甲状腺機能亢進症. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版. 2017:155-157	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	田上哲也、成瀬光栄. 甲状腺機能低下症. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版. 2017:155-157	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版

□ 内分泌・甲状腺・高血圧センター 平成29年度看護概要

- 平成24年12月より内分泌・甲状腺外来から内分泌・甲状腺・高血圧外来に名称が変わり、高血圧の初診患者を全て当科で対応することとなった。
- 内分泌・甲状腺・高血圧センターは、小児から高齢者と年齢層も幅広く、また疾患も多岐にわたる。
- 治療方針や診断確定のために外来での安静採血や負荷試験、検査入院が必要となることが多い。
- 平成25年1月より、東日本大震災で被災し福島県より避難された放射能の影響の可能性がある子どもの方を対象にした甲状腺エコーの協力施設となり、火曜日と木曜日に福島エコー枠を設け実施している。
- 平成29年1月より骨粗鬆症・サルコペニア専門外来が開設され、主に整形外科・婦人科・健診センター・他院からの紹介を受け診断と治療を行っている。
- 内分泌・甲状腺・高血圧外来では負荷試験や検査に不安をもったり苦痛をとまったりしないように、また、若年層の悪性疾患の方への精神的なフォローに努めている。
- 疾患によっては服薬や自己注射など長期にわたるコントロールを必要とするため、(外来→入院→外来と)継続した関わり、患者の立場に立った援助が行えるように日々心がけている。

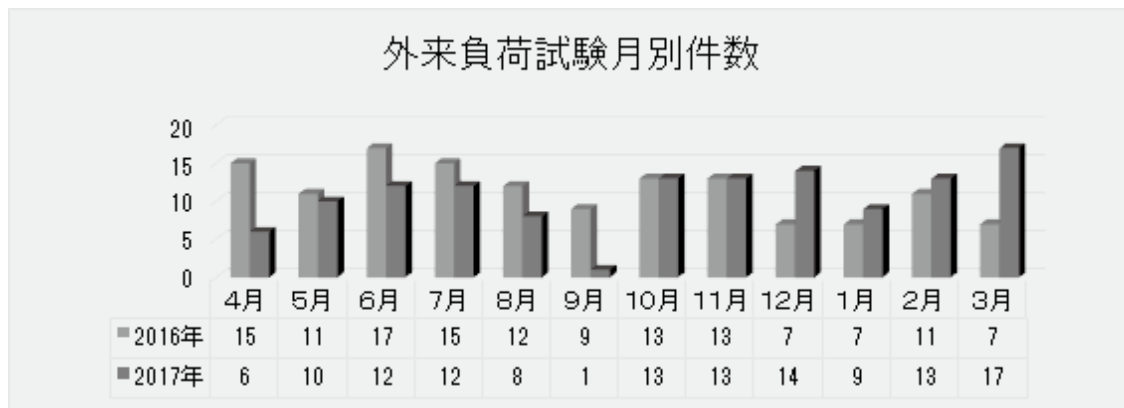
外来患者

- 他院で検査を受けて甲状腺疾患を指摘されたり、下垂体疾患で治療中だが専門病院での治療を希望されたり、あるいは高血圧で降圧剤を服用しているがコントロールが悪かったりして、紹介受診される患者が多い。



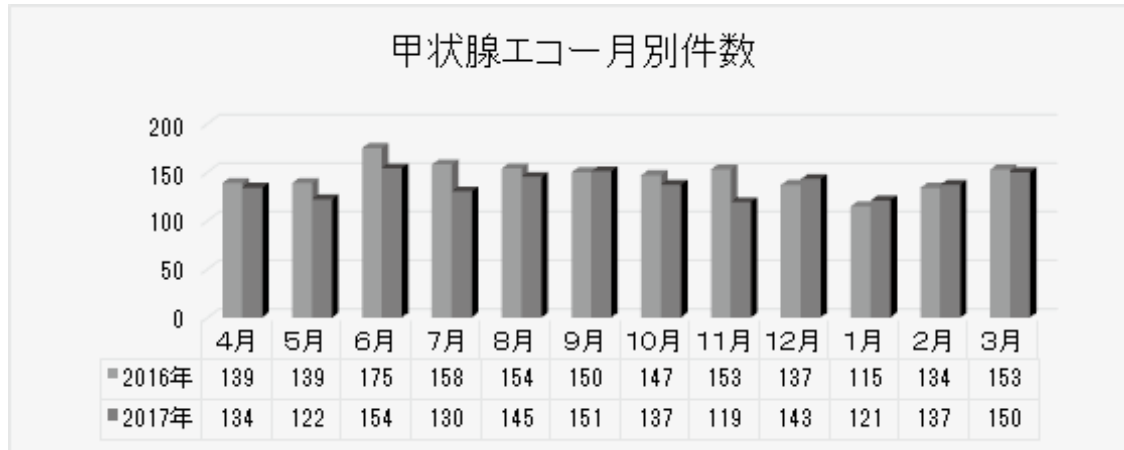
外来検査・処置

- 副腎偶発腫瘍や原発性アルドステロン症などの鑑別や下垂体疾患の評価を目的として、外来で安静採血や負荷試験を実施している。
- 安静採血はベッドに30分安静になった状態で実施している。
- 下垂体疾患では成長ホルモンの筋肉注射が多い。油性のため吸引時、注射時は慎重を要する。成長ホルモン自己注射導入では若い患者が多いため外来受診時に患者とその家族に継続的に関わりがもてるように心がけている。



甲状腺エコー

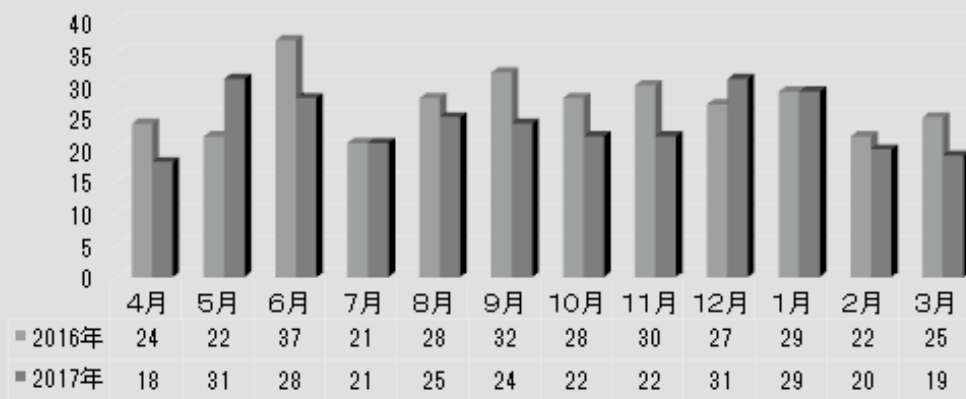
- 甲状腺エコー下の細胞診検査は穿刺への恐怖と不安感がみられる為できるだけ付き添い状態把握に努めている。
- 福島甲状腺エコーでは2歳から21歳までの若年者が受診される。東日本大震災において福島で被災し、原発の影響に不安を抱えて来院される両親が多く、また実際に検査を受けるのは乳幼児が多いため、検査が不安無くスムーズに進むように心がけている。



退院支援

- 2012年11月から活用となった退院支援計画書は入院説明時に記載し、支援必要患者には自宅での状況や介護保険の申請状況、サービスの利用状況等を確認し、カルテ記載をすることで病棟との連携が図れるようにしている。
- 退院時次回受診時の説明や退院後の指導も行えるときは病棟に出向いて実施している。

退院支援



内分泌・甲状腺・高血圧センター 担当看護師